

第1回 ICTを活用した歩行者の移動支援に関する勉強会の概要

1. 開催日時等

日 時： 平成22年9月16日（木） 10:00～12:00

場 所： 中央合同庁舎3号館4階会議室

委 員： 坂村 健 東京大学大学院情報学環教授
岩下 恭士 毎日新聞デジタルメディア局ユニバーサロン編集長
碓井 照子 奈良大学文学部地理学科教授
立松 英子 東京福祉大学社会福祉学部教授

主宰者： 藤本 祐司 国土交通大臣政務官

行政側出席者：

総合政策局、都市・地域整備局、道路局、鉄道局、港湾局、航空局、
国土技術政策総合研究所、国土地理院、観光庁

事務局： 政策統括官付参事官室

2. 議事概要

本勉強会の主宰者・藤本国土交通大臣政務官、座長・坂村健東京大学大学院教授より挨拶を頂き、事務局より資料1（設置要領（案））、資料2（ICTを活用した歩行者の移動支援について）について説明を行った。なお、設置要領（案）が了承された。主な議論は以下の通り。

（1）移動支援システムの概要について

- 移動支援プロジェクトは海外からも注目を集めている。これまでの実証実験により、システムとしてきちんと整備すれば、うまくいくことが分かってきた。
- 重要なポイントは3点あると考えている。
 - ・利用者が自動的に情報を得られるPush型のシステムを基本とすること
 - ・最終的には汎用端末（携帯電話）で活用できること
 - ・場所情報コードなどのシステムを支えるインフラ技術に注力することが重要

（2）移動制約者から見た歩行支援システムに期待する事項について

- 歩行者にとって、Pull型ではなく、Push型のシステムを使用し、情報がどんどん入ってくれば、非常に便利である。単なる誘導ではなく、視覚障害者が歩く楽しみを感じられるようなシステムであることを期待したい。
- 障がい者に対する環境を整え、自主的に行動が選択できるようになると、行動障がいが減り、介護者や家族の生活を上げることができる。
- 例えば、靴底のセンサーが、点字ブロック内のICタグを感知し、信号前で立ち止まるように振動する等、安全面の向上にも寄与できるものと考えられる。
- 駅の入口の違いなども容易に分かると有難い。

(3) 公物管理への活用等について

- Ucodeを格納した位置特定インフラを埋設したり、道路に取り付けるなど、位置特定インフラを設計段階から位置付け、公物管理に活用していくことが重要。それにより、維持管理コストの低減も期待される。
- 地理情報活用推進基本法に基づく基盤地図情報の整備や、道路、河川、土地家屋といった空間情報を整備することに歩調を合わせて、歩行空間ネットワークデータを整備することが必要。
- 例えば、少子高齢化を補うロボットを活用する場合、歩行空間ネットワークデータや場所や物を示すUcode、詳細な高さ情報を示すデータの整備が必要。
- ICT技術を安全管理のみならず、自立通学の支援など、見守りの手段としても有効。
- 盲導犬は人の顔の高さまで配慮出来ない。位置情報には「高さ」情報も必要ではないか。

3. まとめ

- 本移動支援システムは、我が国固有の技術であり国際展開も期待されるもの。また、社会インフラの維持管理コストの低減にも寄与するものである。
- 高齢者や障がい者が積極的に活動できる環境の構築や見守りの観点、及び観光の高度化、まちなか居住の推進を念頭に置きながら、勉強会を続けていく。
- 今後、民間企業等からのヒアリングを行いつつ、個別テーマについて議論を深めていくこととする。